

かけはし

発行：峡南教育事務所
地域教育支援スタッフ

第169号
2020年8・9月号

南巨摩郡富士川町鵜沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。
<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



目次: ページ

令和2年度峡南地推協 新会長挨拶	1
子育て学習会案内	1
教育フォーラムオンライ ン開催	2
早川クリーン活動	2
市川高校校章移設式	3
ことぶき勸学院オリエン テーション	3
増穂商業高校富士川学	4
地推協委員の方から 応援メッセージ	4



コロナウイルス騒ぎで始まった今年度も、早いもので折り返し地点になりました。夏休み中も多くの恒例行事が中止になりました。感染症対策をしながら開催されたものについてお知らせします。

前回の「かけはし」(六・七号)で紹介して頂きましたが、峡南地域教育推進連絡協議会の会長となりました早川町教育委員の江本たまきです。
毎年六月に行う理事会、そして七月に行う総会とも新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面での決議となりました。そ

務所や関係機関の御指導、御協力を頂きながら峡南地域における教育の推進のために、役に立てるように頑張っていきたいと思っております。この協議会は、平成十七年に設立され、十五年を経て定着し、良い学びの場になっているのではないかと感じています。

令和2年度 峡南地推協 江本たまき新会長 あいさつ

こでの承認を得て、会長をさせて頂いております。本来ならば、総会で新任の挨拶を行うことになっていましたが、それもかなわず、今回の「かけはし」での挨拶となりました。
大変な中での始まりとなりましたが、四人の副会長さんをはじめ、理事のみなさん、教育事



江本 たまき 新会長

峡南地域においても少子化や核家族化は、多く見られるようになり、また、家庭や地域を取りまく環境の変化もみられます。地域ぐるみで子育て支援の必要性が高くなっていきます。子どもの健やかな成長のため、家庭・学校・地域が連携、協力して未来に活躍してくれる子ども達のために、コロナ禍の中ではありますが、共に学びましょう。どうぞ、よろしくお願います。

アンガーマネジメント
って何?
「アンガー(anger)」とは日本語で「怒り」のことです。怒りをうまくコントロールして、問題解決やコミュニケーションなどに生かしていくトレーニングがアンガーマネジメントです。最近教育だけでなく、企業研修でも導入されています。

地推協主催 峡南地域 子育て学習会のご案内

「子どもたちの笑顔は、大人の笑顔から」

～ アンガーマネジメント研修 ～ (仮題)

講師：日本アンガーマネジメント協会会員
日時：11月6日(金) 19:00開始
場所：身延町総合文化会館

広瀬 竜太 氏



峡南地域 教育フォーラム開催

「子どもの心の育ちを地域で支える」

主役は子どもたちだ

教育フォーラムとは

地域教育推進連絡協議会と峡南教育事務所共催で、毎年一回行っている講演会です。毎回、さまざまな教育分野の専門家に講師をしていただいています。今回は、山梨県立こころの発達総合支援センター所長であり、子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長でもある田中哲先生に講演していただきました。

感染症拡大防止に配慮して、八月二十六日(水)開催

新型コロナウイルス拡大防止のために消毒や検温など、さまざまな対策を行い、身延町総合文化会館で開催されました。最初六〇名を超えた申込がありました。会場での密を避けるためにご協力いただき、四〇名での聴講となりました。

オンライン講演スタート

初めて東京と会場を結んで、オンラインで行いました。江本地推協会長の挨拶の後、講演は次のアフリカのこゝろから始まりました。子ども一人育てるには村が丸ごと必要である。

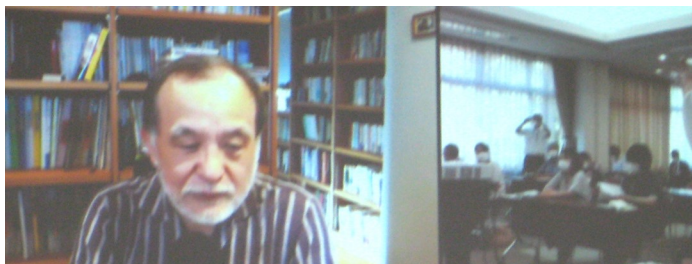
これは「村人の中で子育てに関係ない人は一人もいない」という、子どもの成長に様々な人の支えが必要であることを表しています。また、子どもの行動ではなく、その背景にある「その人であること」に着目することの大切さを教えていただきました。参加者は熱心に聞き入っていました。詳しい内容につきましては、次号やホームページに掲載します。

2つの会場をつないでいるオンラインの画像

東京から田中先生



身延町総合文化会館



ふるさとをきれいに!! 早川クリーン活動

富士川流域クリーン活動

峡南地域の小中学校で取り組んでいる活動で、約三十年の歴史があります。また、県知事や建設大臣の表彰を受けた実績のある活動です。各校区の状況にあわせて時期や場所が計画されます。今回は、早川町教育五者主催の『早川クリーン活動』を紹介します。

夏休み初日八月一日(土) 早朝実施

北小学区三カ所、南小学区九カ所に分かれてクリーン活動が行われました。朝七時三十分、児童・生徒、保護者と職員が各場所に集合しました。



志賀敏秀 連合PTA会長

高住地区には八名が参加しました。最初に志賀敏秀連合PTA会長から「今年はPTA活動がほぼすべて中止で、今日が実質最初の活動となります。ふるさと早川をきれいにするために協力して作業を進めましょう」と挨拶がありました。早川南小脇の春木川の河原に降りると川の水量はいつもより多く勢いがあります。毎年このことで、参加者は慣れた様子で河原を進んでいきます。道路から投げ捨てられた空き缶や燃えるゴミ

←どんどん進みます

軽トラいっぱいゴミが集まりました↓



約一時間の作業を終える頃には、みんな分擔しないと持ちきれない量になりました。

もありましたが、川を流れてきたと思われるゴミも多くありました。

感染症に配慮して活動

今年には感染症対策のため屋外とはいえ暑い中全員がマスク着用での作業でした。同日、県総体があり、参加が難しい中学生もいて少人数での活動となりました。町全体で例年と同じくらいの可燃ゴミ六袋、空き缶一袋、不燃ゴミ(瓶も含む)五袋が回収されました。回収されたゴミは役場の町民環境担当の方が峡南衛生組合に届けてくれました。また、早川中では、クリーン活動後に校庭の草取りも行いました。地域・家庭・学校が連携して、環境美化を通して自分たちの地域を愛する心を育てる素晴らしい活動でした。





卒業生発案市川三郷レンジャー

空間となっていました。
が結婚して、子どもと一緒に訪れたというメッセージもあ

市川高校 Goodbye まなびや project

旧校舎にお別れのメッセージ

Goodbye まなびや project



壁に書かれた校訓

市川高校では、解体が始まる前に、思い出のつまった校舎に別れを告げる行事が行われました。六月一日から二六日まで、同窓生、在校生、関係のある先生が校舎の壁や窓にそれぞれの思いや、黒板にアート作品を描きました。

感謝の気持ちを黒板アートに



校章移設式

六月二十七日午後二時に校章移設式が始まりました。校舎の壁面にあった校章を取り外し、同窓会長、校長先生、生徒会長の挨拶後、参加者全員で校歌を歌い、校章を囲んで記念写真を撮影しました。

校舎には校章の跡！



いちかわファミリーの絆

今回の行事は、生徒会と、同窓生でもある小林智（さとし）校長先生の共同企画で、INFMやSNS、同窓会のホームページのみでの広報でしたが、いちかわファミリーの結束力が多くの人々が参加しました。同窓会ではホームページに、市川高校の校舎や本プロジェクトの様子をアップロードしていきますので、ぜひご覧ください。

さまざまな行事中止の中で

学園祭、高校総体、高校野球選手権大会などさまざまな行事が中止になる中で、目標を奪われてしまった生徒たちが落胆から立ち直り、次のステップに進めるように、市川高校では、顧問や監督が時間

九月に開講式

四月の開講が延期されていたことぶき勸学院が、いよいよ九月から始まります。開講式に先駆けて、八月二十五日に二年生、二八日に一年生のオリエンテーションを行いました。

大人気の峡南教室

峡南教室は、雰囲気がいよこで知られています。そのため、コロナウイルス禍にありながらも、一年生二五名と、二年生一九名の申込がありました。県内で最大級です。



担任 石川君男先生

をかけて話をし、生徒と向き合いました。感染症防止のため、人との物理的な接触は避けることが必要ですが、心のつながりは以前よりもさらに大切にされています。

令和2年度 ことぶき勸学院始動！

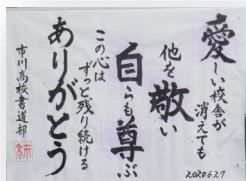
十分に間隔をとって 班で話し合い↓

今回の内容

今回は、感染症対策、今後の予定の説明や学級の役員選出などを行いました。班ごとに活発に話し合いが行われ、それぞれの学級長からの挨拶がありました。今後の講座の様子も、かけはして紹介します。



書道部の作品



増穂商業高校 富士川学

ありがとう

増商の学舎

富士川学とは

増穂商業高校は、地元可愛され、地元の人々と共にある高校です。来年度青洲高校の校舎に移動するため、現在の校舎から離れることを機に、総合的な探求の時間に「富士川学」と称して、二年生七七名が町の歴史や文化を六時間構成で学びました(表←)。
今回は三時間目の歴史作家江宮隆之先生の講演取材しました。

講座概要

「富士川町の歴史と人物」

富士川舟運・先人たちの生き方

感染症対策のため窓を解放した体育館で、生徒は間隔を広くとって整列し、開始五分前には集合が完了しました。講座は、富士川と町が刻んできた歴史から始まりました。江戸時代から昭和の始めまで続いた伝統産業である「富士川舟運」が角倉了以により開通され、当時は現在の私鉄のような役割を果たしたことで、そして地域の人も舟運の流通に役立ち、その後年貢米を運ぶことにも使われたこと、その中で葛飾北斎や歌川重、十返舎一九が作品を創作したことや、落語『鰻沢』が生まれたことなど続けました。鰻沢は要衝となり繁栄し、その跡地に碑(写真←)が建てられたことも教えていただきました。

富士橋近くローソン南の碑
説明書きも添えられています



また、富士川町出身の偉人にも話は及び、挫折を乗り越えながらも病気で深く総理大臣の座を退いた石橋湛山、女性解放運動に貢献



した望月百合子について語られました。富士川町の風土が芸術や文化を生み出すことにも触れ、『豊の記憶』(油絵)の作者石井精一、著書が映画化された『甲州商人』の熊王徳平、『ガキ大将行進曲』の塩沢清、そして『白磁の人』の著者であるご自身のことなどに触られました。
結びとして富士川町の、山梨の、そして日本のすごさを分かってもらいたいと生徒たちに熱く語られ、講座が終了しました。生徒たちは熱心にメモをとりながら、耳を傾けていました。

学校経営方針 感謝・協働・自立

富士川学では、富士川町を誇りに思うことを目指しています。地域に感謝と恩返しをし、そこから自分で、または仲間、地域の方々と共にできることを考え(協働)自分はそのように生きるか(自立)につなげていくことが最終目的です。感染症対策で行事や昼食

地推協役員の方から、応援メッセージ 第2回 50音順 敬称略

時など学校生活に影響が出ていますが、増商では今の校舎の生活を大切にしています。

今まで経験したことがない状況を過越し、新しい生活様式に慣れるよう努めて参りました。現状を少しでも改善できるよう、今だからこそ、子供達に対して大きな心と優しさをもって接してあげたいと感じます。
子ども達の敏感な面にストレスがないように、まずは私たち大人も「ゆとり」を持って今を過ごしたいと思っています。

(市川三郷町 小林正典)

私には高一と小六の子供がいます。この地域に生まれて毎日学校生活を楽しく過ごしています。きっと大人になり思い出すことは生まれて育った地域、楽しく過ごした学校生活。コロナウイルスによりできなかった、楽しみにしていた行事は教育の一環。子ども達にアンケートをとりこの会でそれを開催できたらと考えます。

(身延町 中村路也)

次回も掲載します。引き続き募集しています。